

20221116_農業ビジネス研究会_議事録

日 時：2022年11月16日（水）19:00-20:30

場 所：Zoom

テーマ：完熟イチジクと都市近郊農業 ～循環型農業へのチャレンジ～

発表者：吉川幸一郎さん（ハッピーファーム 代表）

参加者：9人

（NPO 法人理事長、農家、介護誌編集長、ジャーナリスト、公務員、
行政書士、司法書士など）

目次：

1. 就農した動機
2. 都市近郊型農業の強み
3. 循環型農業の取組み

発表：

1. 就農した動機

2022年、羽曳野市で新規就農しました。いちじくを中心に無農薬・無化学肥料で栽培しています。いちじくのほか、さつまいもなども栽培しています。

両親は非農家です。元々はプログラマーをしていました。Webサイトの企画設計などです。そんな私が就農した動機は次のとおりです。①お客様のWebサイト制作のお手伝いをしたことがきっかけの一つです。お客様の業務は農業と関係なかったのですが、農業にチャレンジしようとしていました。このため、仕事で農業の調査をすることになりました。IoTとかのキーワードとともに、担い手・高齢化などの課題を知ることができました。業界としての可能性を感じることができました。②30代で独立しようと考えていました。Webサイトの企画設計はノートパソコンとネット環境があればできる仕事です。参入障壁が低いということです。常にキャッチアップのための勉強が必要です。3年で技術が変わるからです。第一線にいることはたいへんと感じていました。10、20年後、Webサイトの企画設計の仕事が続けていることは難しかったです。③食べるのが好きだからです。美味しい物を食べると幸せになれます。また、自分が作ったものを美味しいと言っただけだと幸せです。

2018年、退職し、大阪農業大学校に入りました。2020年、独立し、いちじく農家を始めました。畑は30アールからです。2022年現在、いちじく畑が25アール、それ以外が75アール、合計100アールとなりました。

就農して大事にしていることは、幸せをお届けすることです。すなわち、美味しい物をお届けするという事です。また、循環も大事にしています。肥料に吉野の木材加工のおかくずを使用しています。カットフルーツの種や皮を堆肥にしています。畑から出た物を畑に戻しています。

2. 都市近郊型農業の強み

羽曳野市は都市近郊型農業の地域です。いちじくの完熟、朝どりを強みにできます。ハッピーファームの販路は八百屋4、直売所3、通販3となっています。八百屋はオーガニックなどにこだわりのあるところ。また、直売所はハッピーファームの無人販売所です。いちじくを毎日買いに来るお客様もいらっしゃいます。いちじくの品種は、榊井ドーフィン、ビオレソリュス（特徴は黒色、とろとろ、甘みがある）、久留米くろみつ（特徴は黒色、水分多く、どろっとしている）、ブルジャケットグリース（特徴は白色、酸味と甘みのバランスが良い）などです。

3. 循環型農業の取組み

循環の取組みについては次のとおりです(クラウドファンディングも行いました)。羽曳野市はいちじくとぶどうの産地です。ぶどうはデラウェアなどを栽培しています。大阪府のぶどうの生産量は全国8位です(令和元年度)、デラウェアに限れば全国3位です。大阪府のいちじくは全国3位です。羽曳野市の山でぶどう、平地でいちじくを栽培しています。農業大学校ではじめて知ったのですが、ぶどうの剪定枝は燃やして処分されていました。「これを何かに使えないか? 堆肥にしておこう」「いちじくの栽培に役立てよう」と考えました。また、ワイナリーから出るぶどうの搾りかすも使うことにしました。この循環の取組みを「ぶどうを肥料にした しあわせ無花果」のロゴに表しました。食べチョコのサイトでも取り上げていただき、売上げを伸ばすことができました。

さつまいもも循環の取組みをしています(こちらもクラウドファンディングも行いました。また、ビジネスコンテストでプレゼンテーションもしました)。SDGs とコンビニで焼きいもを食べると農家を応援できるがコンセプトです。毎年、大阪では64万本のいちじくの枝を処分しています。これを堆肥にして畑に戻すのはどうかと考えました。しかし、いちじくの畑に入れると病害虫も戻ってくる可能性があります。そこで、木炭にして、さつまいも畑に入れることとしました。炭のメリットは微細な空洞にあります。その空洞に水、酸素、肥料が蓄積され、土中の微生物が育ちます。CO2削減にもなります。換算したところ、自動車が排出する地球30周分のCO2削減の効果があることがわかりました。コープさっぽろとサッポロビール北海道本社は道有林のカーボン・クレジットを活用した「北海道の森に海に乾杯!」を実施しています。ビールを購入した消費者が自ら排出するCO2をオフセットする取組みです。ビールを買えば、北海道の森を守ることができます。これを、大阪でもやりませんかということです。

ぶどうの枝がいちじくになり、いちじくの枝はさつまいもになります。いちじくは「しあわせ無花果」というブランディングができました。次はさつまいもです。

以上